

第1回「土曜日における学校教育の在り方」分科会 概要

1 日 時

平成23年 8月26日（金）午後3時～午後5時

2 場 所

福利厚生センター 3F 第3会議室

3 出席者

委 員

山口分科会長、芦田委員、山本委員（メンバー）

加賀爪委員、中條委員、小田垣委員、松本委員（準メンバー）

■意見交換・協議

<土曜日における学校教育の検討の視点>

- ◇ 単に土曜日に授業等を位置づけるのではなく、子どもたちの地域や家庭における生活をどのように充実させるのか、子どもたちの土曜日の生活をどのように豊かにするのかという観点から、学校教育の中で、何ができるのかを考える必要がある。
- ◇ アンケートの結果では、子どもの過ごし方について「充実していない」と保護者が感じる家庭では、子どもたちが家でテレビを見ている、ゲームをしているという回答が最も多い状況にある。このことは、土曜日は家庭で体験的な学習を通じて生きる力をはぐくむという学校週5日制が目指したものが実現できていないことを示していると言える。このような状況を改善するためには、親の教育力の向上や土曜日の家庭での生活工夫など、学校教育を通じてどのような家庭教育への支援が出来るかを検討することが大切である。
- ◇ 親の意識が家庭教育の在り方に大きな影響を及ぼしているため、親を巻き込んだ土曜日の活用方策を検討することにより、親の意識を高め、家庭教育の充実につながる取組も考える必要がある。
- ◇ 一方で、勉強する子どもとしない子どもとが二極化しているという現状を考えると、子ども全体のレベルアップを図るためには、学力向上という観点から、支援策を検討することも必要である。
- ◇ 単に学力を高めるための土曜活用ではなく、それを支える子ども達の生活体験によって学ぶ意欲や考える力をそだてるという観点から活用すべきである。
- ◇ 学校週5日制の下で、授業時数の確保をするために体験活動を伴う行事が精選され、座学だけでは身につかないものを身につける機会が減少してきている。学校週5日制の中で、月曜から金曜までに、行事や授業を無理に押し込んでしまった弊害のようなものはないのかということも検討すべきである。

<実施体制について>

- ◇ 全ての土曜活用に教師が関わるようなモデル（素案）になっているが、地域の方々の力を借りて学校の施設を使うようなやり方を考えてもよいのではないか。
- ◇ 現在、地域の方々が子ども達のためにいろいろな取組を始めている状況にあり、学校中心に戻すのではなく、地域の方が土曜活用にすすめていく体制を考えていかななくてはならない。

- ◇ スポーツ少年団等で活動している児童や保護者たちは、土曜日を活用して何かして欲しいとは思っていないが、一方で土曜等にもなんらかの支援が必要な児童もいることから、子ども全員を対象としたものにするのか、自由参加なのか。本当に土曜日の活用をすることによって意味がある子どもや保護者に届くようなシステムや在り方を考えなければならぬ。
- ◇ 一方で、完全に選択制にしてしまうと学校の教育活動として成り立たなくなるのではないか。

<実施内容について>

- ◇ 担任の負担感という点で土曜日の内容を考えると、平日と同じような授業を実施する場合には、負担感はそう大きくはならない。例えば、中学校では、中間・期末テストで部活動が中止となる土曜日に補習をすること等であれば、実施できると考える。
- ◇ 地域と連携した体験活動などを実施するには、教師にとっては体力的にも時間的にもかなりの労力が必要である。子どもたちの体験的活動が大切なことは正論であり、土曜日に入れていければいいがその一日の準備のために多くの時間を費やすこととなる。理念はよくわかるが、教員のストレスは大きくなる。
- ◇ 体験活動等では学校の負担がかかるが、そんなことを言っている場合ではない。土曜日を活用することにより、子ども達の豊かな体験、人とのつながりのある体験、生活を作っていけるような方向で検討していくべきである。
- ◇ 学校現場での経験から、様々な体験活動をしてきた生徒は、何か取り組むときに粘り強く、最後まで取り組むことが出来る。一方、体験をしていない生徒は、途中で挫折してしまう傾向が強いと感じる。
このような観点からも小学校や中学校段階で、子どもたちが様々な体験活動を行うことは重要である。

<実施に当たっての課題>

- ◇ 土曜日を活用して学校教育活動を行うと、教職員の土曜日勤務の振替をどうするかという問題が生じる。中学校ではクラブ活動等に熱心な先生ほど大会等で勝ち進み、振替等をとれる状況ではない。
- ◇ 小学校では地域行事が計画・実施されているが参加者が3割程度、中学校に至っては1割程度であり、十分に活かされていない現状を改善する必要がある。
- ◇ 中学校においては、土曜日に部活動等が実施されており、土曜日を活用した取組を教育課程に位置づけるかどうかは慎重に議論する必要がある。

■ 今後の検討に向けて

今回、各委員から出された観点を含め、事務局で「土曜日における学校教育活動のモデル(案)」を作成し、次回の分科会でモデル案をもとに検討を進めることとされた。